

平成30年3月27日

## 登録美術品の登録について

この度、「美術品の美術館における公開の促進に関する法律」に基づき、2件の美術品が登録美術品として登録されましたので、お知らせします。

詳しくは、別添1「今回の登録美術品について」を御覧ください。

なお、今回登録される2件の美術品は、東京国立博物館において公開される予定です。

### ○登録美術品制度について（詳細は別添2）

本制度は、「美術品の美術館における公開の促進に関する法律」に基づくものであり、個人や法人が所有する優れた美術品を文化庁長官が登録美術品として登録し、美術館で積極的に公開することにより国民の美術品を鑑賞する機会を拡大することを目的としています。

所有者には、登録された美術品について、美術館で安全かつ適切な保管がなされることや、美術品による相続税の物納が容易になることなどの利点があり、これまでに75件8,387点の美術品が登録されています。

#### <担当> 文化庁文化財部美術学芸課

課長	圓入 由美（内線 2884）
美術館・歴史博物館室長	山崎 英司（内線 4795）
課長補佐	吉野 孝行（内線 3102）
美術品登録調査官	松本 純子（内線 3152）
振興係長	福島 俊輔（内線 2833）

電話：03-5253-4111（代表）  
03-6734-2834（直通）

## 今回の登録美術品について

### 1 所有者：

下記①：個人

下記②：個人

### 2 登録日：平成30年3月27日

### 3 公開美術館（予定）：

下記①：東京国立博物館（東京都台東区）

下記②：東京国立博物館（東京都台東区）

※公開のスケジュールは同館において決定されます。

### 4 登録美術品の概要：

	登録 番号	美術品の名称	種類	制作時期	員数	備考
①	76	しほんたんさいこうざんせきようず 紙本淡彩江山夕陽図 しょうちなどしゆうにそう さん 性智等十二僧ノ賛アリ	絵画	室町時代 (15世紀・14 37年頃)	1幅	重要文化財指定 (昭和25年8月29日)
②	77	しほんちやくしよくばいそうしざんけつ 紙本著色馬医草紙残闕	絵画	鎌倉時代 (13世紀)	1幅	重要文化財指定 (昭和25年8月29日)

## 【登録番号76】

作品名： 紙本淡彩江山夕陽図 性智等十二僧ノ賛アリ

員数：1幅

法量・形状等：紙本淡彩，掛幅装，寸法：130.3 × 30.2 cm

制作時期：室町時代（15世紀・1437年頃）

制作者：不明

説明：

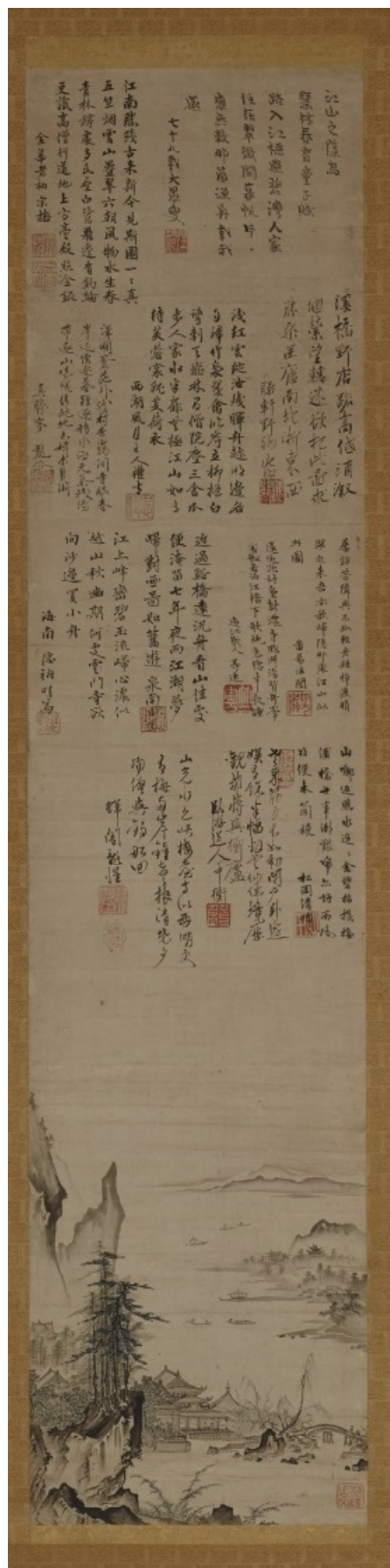
本作品は、山水画に禅僧が漢詩を添えた詩画軸である。江山の隠棲の地を思わせる図様を濃淡の変化を生かした筆墨法で描いた作品で、図上に性智等の12名の禅僧による著賛がある。性智らは京都五山を代表する文人僧であり、洛中の文人僧を結集させた趣をもつ詩画軸となっている。性智の賛尾には、「七十九載大愚叟」とあることから、性智の没年から逆算して、本作は永享9年（1437）頃の制作と推定される。

近景には岩崖に立つ松樹を濃墨で表し、その奥に急峻な山を背にした水辺の寺や楼屋、橋を配す。中景には水際の家々や数艘の小舟、遠景には霞むなだらかな山並みを淡墨で表し、淡く施された彩色によって夕映えの趣となっている。絵は縦長の詩画軸の画面下部に限定された小画面ながら、広闊な眺望を描きつつ、近・中景には微視的な表現がとられ、人々の営みまでが表されている。

画面右下に「越溪周文」の朱文方印が捺され、周文筆との伝称もあるが、当該印は後捺と考えられている。

本作は制作時期が推定されるもので、室町時代に盛行した詩画軸の代表的な作品として絵画史上に価値が高く、重要文化財にも指定されている。

(写真)







(下部)



## 【登録番号77】

作品名： 紙本著色馬医草紙残闕<sup>しほんちやくしよくばいそうしざんけつ</sup>

員数：1幅

法量・形状等： 紙本著色<sup>かけふくそう</sup>，掛幅装，寸法：26.2×22.7cm

制作時期： 鎌倉時代（13世紀）

制作者： 不明

説明：

本作品は、馬医草紙絵巻<sup>ばいそうしえまき</sup>の一部が切断されて伝来したものである。

馬医草紙は、古来有名な伝説的馬医<sup>うまや</sup>の肖像と、<sup>うまや</sup>厩につながれた名馬、巻末に薬草図を添えた絵巻で、中国から伝来した本に日本の馬医などを加えて伝写され、秘伝書として相伝<sup>そうでん</sup>されたものである。

馬医草紙の完本とみられる作品は東京国立博物館に所蔵されているが、本作品はその第6図部分に該当する。

莫座<sup>こざ</sup>の上に立ち鼓を手にする白衣の女と、その傍らに座す少女を描いたもので、描線を主体として、淡く彩色が施されている。画面左隅には「大汝 奴婢 小女 小鳥」と短冊形に区画した中に墨書している。図様は完本の絵巻とほぼ同一であるが、描写は絵巻よりも精確で、図写年代は文永4年(1267)の奥書<sup>おくがき</sup>がある完本よりもやや遡ると考えられる。

現在東京国立博物館には、完本の他に第5図に該当する残闕<sup>ざんけつ</sup>も所蔵されており(共に重要文化財)、当該作品が併せて同館において公開されることは、研究を深める上で意義が深い。

本作品は、馬を重んじる時代風潮を反映して相伝された馬医草紙の伝写関係を具体的に示すものであり、我が国文化史上、絵画史上に価値が高く、重要文化財にも指定されている。

(写真)





## 制度発足の経緯

近年、我が国において美術に対する人々の関心が高まり、美術館が増加するとともに、美術館を訪れる人数も増加している。一方、国内には優れた美術品が数多く存在すると思われるが、それらがすべて美術館において一般公開されているわけではなく、必ずしも十分に活用されないままになっていると思われる。

このような状況を踏まえ、国民の優れた美術品を鑑賞する機会の拡大を目的として、平成10年6月に「美術品の美術館における公開の促進に関する法律」が公布され、同年12月の施行により登録美術品制度が発足した。これまでに75件（8,387点）の美術品が登録された。（平成30年2月末現在）

なお、登録美術品制度の特例措置である相続税について、平成18年に初めて登録美術品で物納がなされた。また、平成24年にも2例目となる物納が行われている。登録美術品であった作品は物納後、引き続き契約美術館において公開され、活用が図られている。

## 制度概要

優れた美術品（※1）を文化庁長官が登録し、美術館（※2）において公開することにより、国民の優れた美術品を鑑賞する機会の拡大を促進する。

### (1) 美術品の登録

美術品の所有者からの登録の申請に基づき、文化庁長官が有識者の意見を聴取した上で登録の可否を決定。

### (2) 登録基準

「重要文化財に指定されたもの」若しくは、「世界文化の見地から歴史上、芸術上又は学術上特に優れた価値を有するもの」のいずれかに該当するもの。後者については、「我が国の国立美術館・博物館のコレクションの主要な部分を構成しうる価値を有する」作品。

### (3) 登録美術品公開契約の締結

所有者は、登録美術品を公開する美術館と「登録美術品公開契約」を締結。契約は5年以上にわたって有効であること及び一方的に解約できないこと等を規定。（寄託よりも安定した公開が可能）

### (4) 相続税の物納の特例措置

相続税を納付する際、登録美術品による物納を希望する場合は、物納が認められる優先順位が、一般の美術品の第3位から国債や不動産と同等の第1位となり、物納が容易となる。

（※1）絵画、彫刻、工芸品のほか書籍、典籍、古文書などの文字資料、考古資料、歴史資料など

（※2）博物館法で規定する登録博物館及び博物館相当施設のうち美術品の公開及び保管を行うもの

## 登録美術品の利点

### (1) 所有者の利点

#### ①美術品を「美術品のプロ」である美術館に任せられ、手元に置いておくより安心

美術品所有者はこの登録美術品制度により、登録美術品を契約美術館において専門家の手により安全かつ適切に保管、管理してもらうことができる。

#### ②相続税の物納の特例措置

登録美術品の所有者が個人の場合は、相続が発生した場合、相続税について、登録美術品で物納しやすくなる。

相続税法上、相続税を金銭で納付することが困難な場合、金銭以外の相続財産で相続税を納付できるものとされているが、その際の優先順位は、

第1順位 国債及び地方債又は不動産及び船舶

第2順位 社債及び株式

第3順位 動産

であり、一般の美術品は第3順位の動産に含まれる。しかし、登録美術品を相続した場合には、一般の美術品とは異なり、物納の優先順位が国債や不動産等と同等の第1順位となり、登録美術品で物納することが容易となる。

### (2) 契約美術館の利点

#### ①安定した公開が可能

公開契約は、5年以上有効でありまた当事者が一方的に解約の申入れをすることができないことから、一定期間所蔵品と同様に安定かつ計画的に管理、保管をすることができる。この点で、通常の寄託契約と大きく異なっている。

#### ②登録美術品が物納された後も継続して公開が可能

登録美術品が物納された後は、国は契約美術館に優先的かつ継続して無償貸与する予定なので、所蔵品と同様に継続して公開することが可能。

## 登録美術品公開までの流れ

美術品所有者が美術館へ相談（公開について、あらかじめ美術館の同意が必要）



美術品所有者から文化庁に申請（美術館の協力を得て申請書作成）



文化庁の審査（文化庁長官が、美術品に関し広くかつ高い見識を有する者の意見を参考に、登録の可否を決定）



登録の可否を申請者に通知



登録美術品所有者と美術館で公開契約の締結（登録通知を受けた日から3か月以内）



登録美術品の公開（国民の美術品を鑑賞する機会の充実）

●文化庁ホームページ 登録美術品制度の御案内

[http://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan\\_hakubutsukan/torokubijutsuseido/](http://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan_hakubutsukan/torokubijutsuseido/)